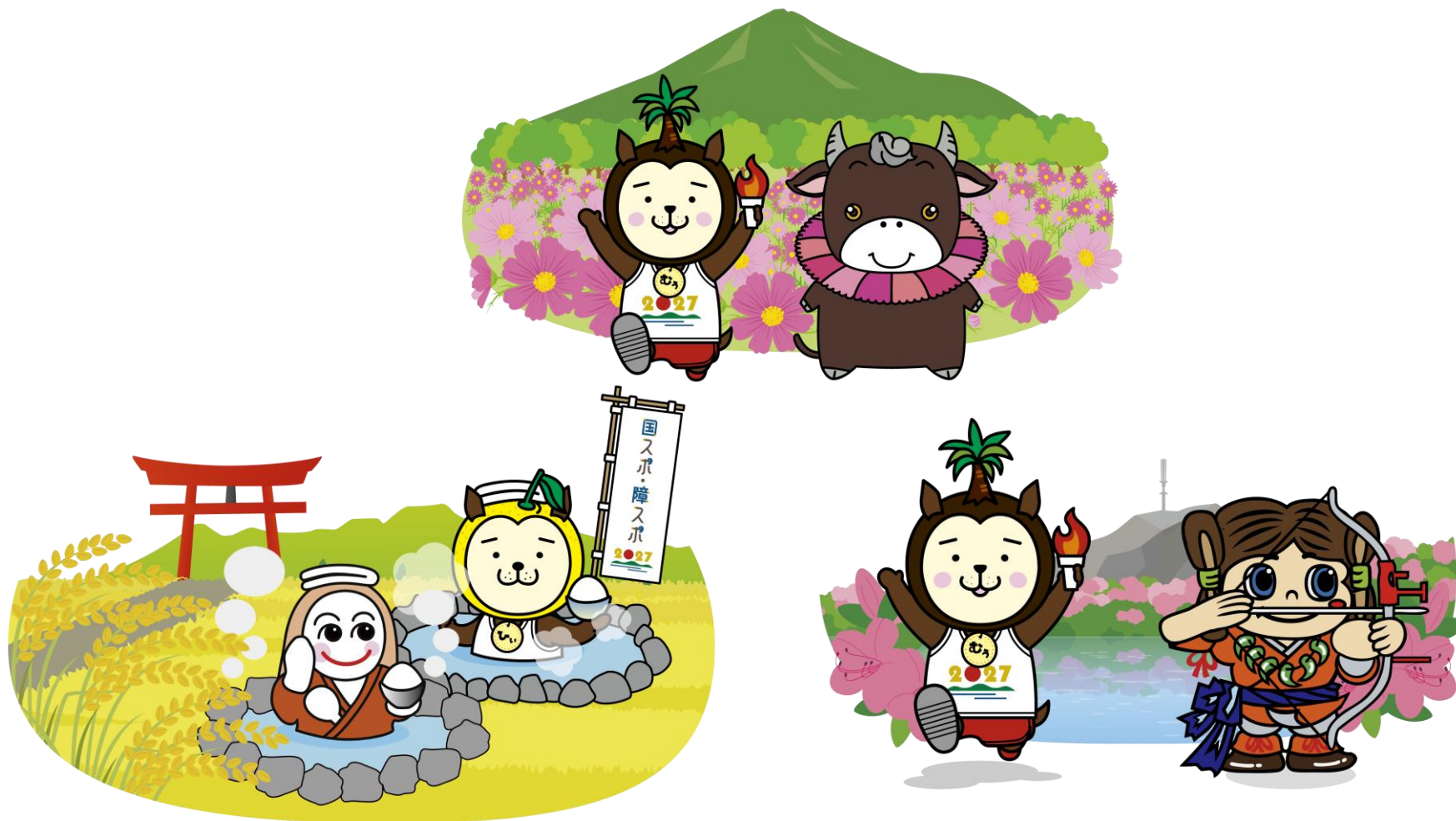


大規模災害時における保健医療福祉活動 支援について

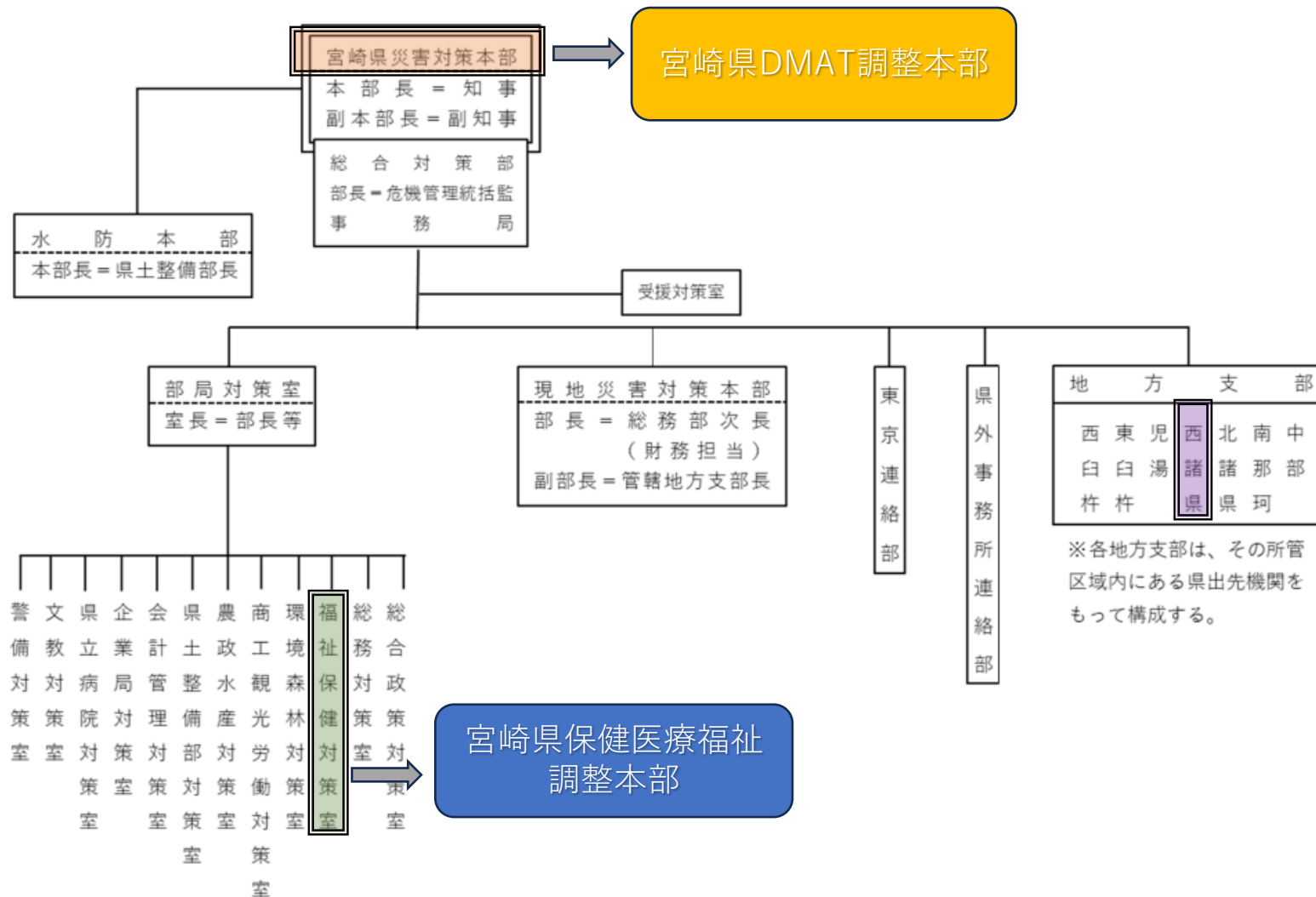


総務企画課

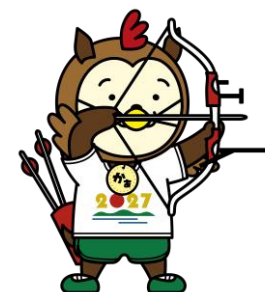
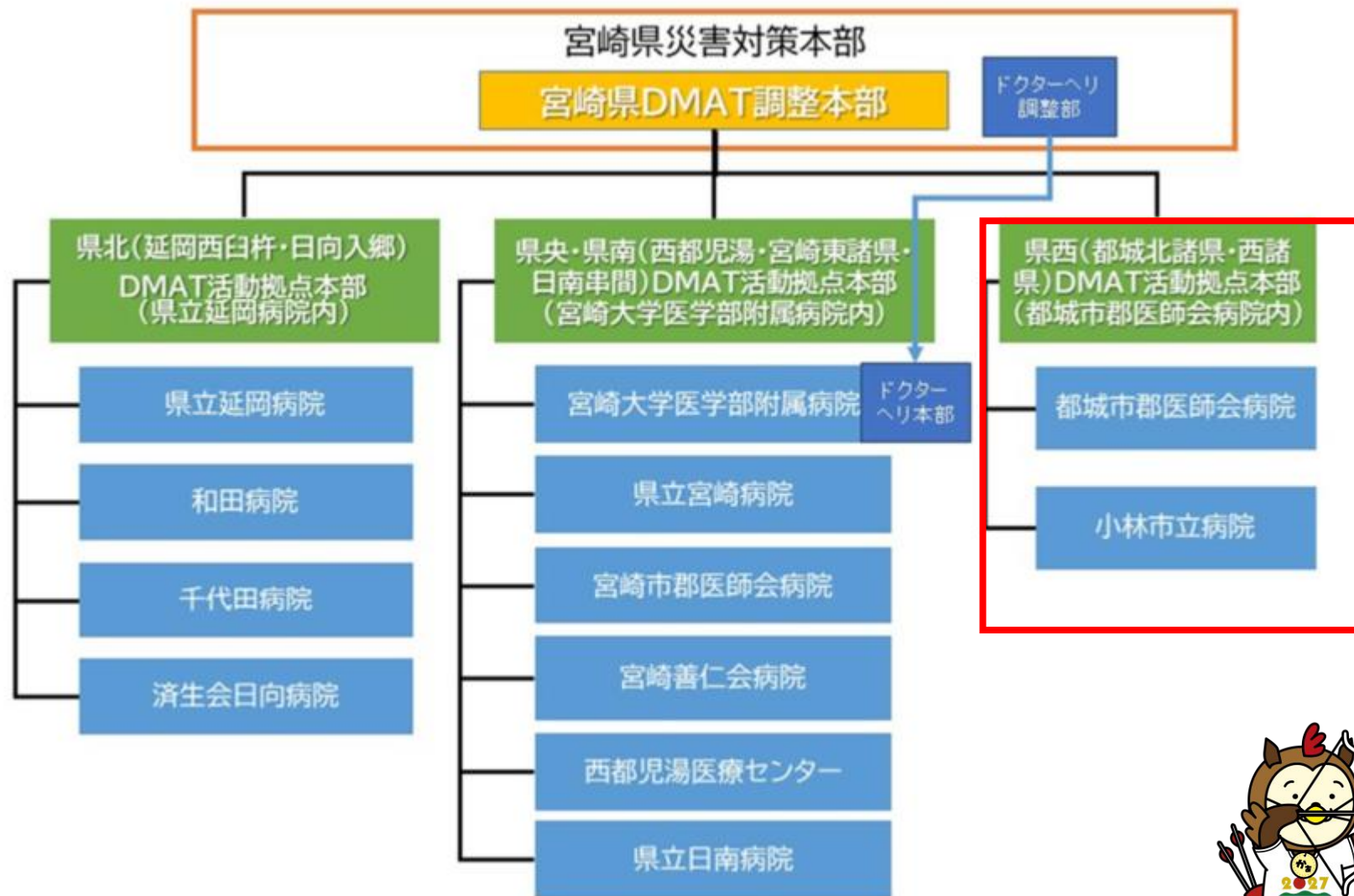


【大規模災害時の保健医療福祉活動支援体制】

県災害対策本部組織図

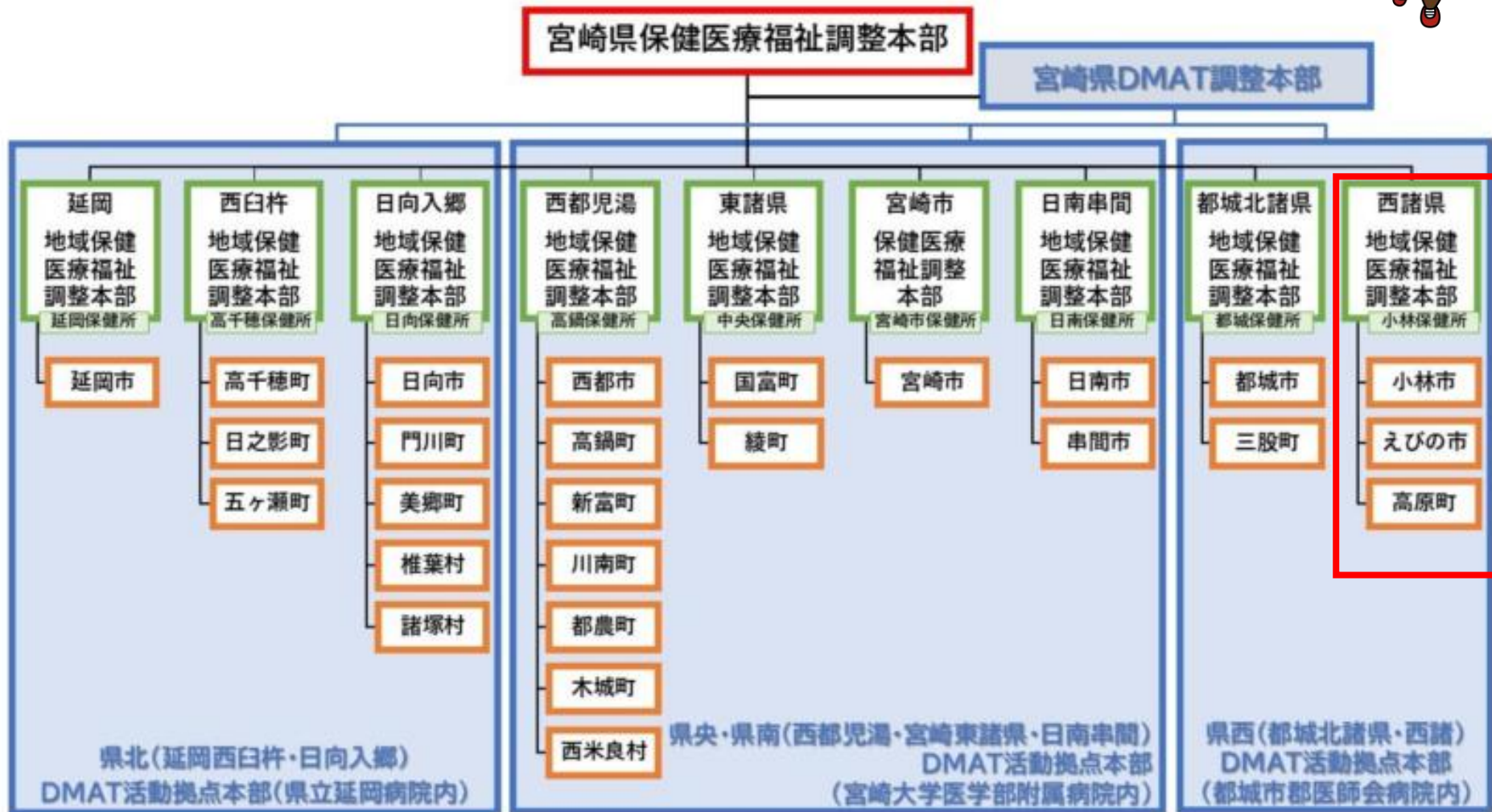


宮崎県DMAT指揮系統図



DMAT調整本部（DMAT:災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team）は、急性期（発災72時間以内）は県災害対策本部内で活動し、亜急性期以降（発災4日目以降）は、避難所支援等の状況を勘案し、保健医療福祉調整本部内で活動を行う。

保健医療福祉調整本部組織図



保健医療福祉調整本部体制図

宮崎県保健医療福祉調整本部

(本部長：福祉保健部長)

本部会議

総括班

情報収集・分析G

支援団体調整班

派遣支援班

県医師会
(統括JMAT)

統括DHEAT

統括保健師

災害支援ナース
調整グループ

保健医療福祉関係機関等（リエゾン）

県歯科医師会

災害薬事コーディネーター

小児周産期

県透析医会

日赤救護班

県看護協会

県栄養士会

災害支援ナース

DMAT、DPAT、JRAT、DHEAT、DWAT、VMATIほか

情報共有
要請／支援

地域保健医療福祉調整本部

(本部長：保健所長)

地域保健医療福祉調整本部会議

総括班

情報収集・分析班

派遣調整班

派遣支援班

地域災害医療
コーディネーター

保健医療福祉活動チーム

DMAT、JMAT、DPAT、JDAT、JRAT、DHEAT、DWAT、
保健師チーム、管理栄養士チーム、災害支援ナース、
地域災害薬事コーディネーター ほか

情報共有
要請

市町村

社会福祉施設
避難所
在宅避難者

連携

宮崎大学医学部
附属病院

ドクターヘリ本部

SCU

DMAT・SCU本部

連携

災害拠点病院

DMAT活動拠点本部
(本部長：統括DMAT)

医療機関

医療機関

医療機関

医療機関

連携

厚生労働本省
現地対策本部
県外関係団体
県内関係団体



【大規模災害時の保健医療福祉活動支援】



保健、医療、福祉の支援概要

保健

- ・被災地域、避難所（一般、福祉）、自宅避難者の生活環境改善や健康被害の低減
- ・要配慮者（人工透析患者、在宅酸素・在宅人工呼吸器患者、妊婦・乳幼児等）への支援

医療

- ・病院の支援
- ・被災者の生命を守るための医療活動
- ・診療所、調剤薬局、訪問看護等への支援

福祉

- ・社会福祉施設（高齢者、障がい児者、児童）の支援



【大規模災害時の保健医療福祉活動支援】



フェーズ毎の支援活動概要

フェーズ0

【初動体制の確立】

(24時間以内)

- ・保健医療福祉調整本部の立ち上げ、保健所及び市町村の体制づくり
- ・被災状況等の情報収集と活動方針の決定
- ・避難所・救護所の開設

フェーズ1

【緊急対策】

(72時間以内)

【生命・安全の確保】

- ・被災状況及び避難所等の情報収集・分析と活動計画の策定
- ・病院、社会福祉施設（入所）、避難所等への支援の検討
- ・応援職員及び保健医療福祉活動チームの派遣調整
- ・避難者の健康管理状況の把握及び福祉避難所等への二次避難に向けた調整

フェーズ2

【応急対策1】

(概ね4日目～1,2週間)

【生活の安定～避難所対策が中心】

- ・情報収集・課題分析に基づく活動計画の見直し
- ・避難者の健康管理や心のケア対策
- ・社会福祉施設（通所）の被害状況確認
- ・職員の健康管理体制の検討・確立

フェーズ3

【応急対策2】

(概ね1,2週間～1,2か月)

【生活の安定～避難所から概ね仮設住宅入居まで】

- ・情報収集・課題分析に基づく中長期的な活動計画の策定
- ・保健医療福祉活動チームの支援活動終了に向けた検討
- ・医療機関や社会福祉施設等の再開に向けた支援
- ・通常業務の再開

フェーズ4

【復旧・復興対策】

(概ね1,2か月以降)

【仮設住宅対策や新しいコミュニティづくりが中心】

- ・保健医療福祉活動チームの支援活動の縮小、終了
- ・応急仮設住宅入居者の健康管理支援、コミュニティ支援
- ・保健医療福祉活動の総括と評価・検証



① 研修参加、規程の整理（R7年度～）

- ・ 宮崎県保健医療福祉調整本部関係者会議参加
- ・ 災害医療コーディネート研修参加
- ・ 西諸地域保健医療福祉調整本部運営指針の策定
- ・ 小林保健所初動マニュアルの改訂
- ・ 西諸地域災害時保健師活動マニュアルの改訂

② 停電時の電源確保

- ・ ポータブル発電機の配備（R5年度）
- ・ 非常用電源施設の整備（R6年度）



ポータブル発電機

（左：ガソリン式、右：ガスボンベ式）

非常用電源施設

定格容量 160kW

燃 料 軽油（タンク貯蔵最大量 3,000L）

使用時間 約72時間（標準的な使用による）

使用方法 九州電力からの送電遮断を検知してから数秒経過後（5～10秒程度）、自動的に稼働し、電気設備が利用可能。また、九州電力からの送電が復電した際は、自動的に停止



地中にタンクを埋設

① 訓練の充実、研修への参加

- ・大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）への参加（R8.11予定）
- ・災害マニュアル等の理解向上を目指した所内研修の実施
- ・管内医療機関と連携したEMIS（広域災害・救急医療情報システム）研修の実施
- ・その他各種研修への積極的な参加

② 備蓄の充実

- ・保健所の必要物品の洗い出しと優先順位に基づく計画的な整備

